

### 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 平成30年度 四国高校選手権	2	派遣期日 2018/6/15～17
3	報告者名 小島 慶子 (社会人連盟)	4	派遣先 大塚スポーツパーク アミノバリューホール(徳島県)

5	大会概要 および 大会結果		
大会名称	四国高校選手権	大会期間	2018/6/16～17
大会内容	各県高校総体の男女上位4チームによるトーナメント戦		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	C/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月16日	徳島城北 - 済美	CC	U 種田氏(高知)	プレイヤーの動きが止まらず、展開の速いゲームだった。レイアップに対するDFがLGPを占めているか、OFFボールでのコースチェックなど、見るべきポイントは絞られていたように思う。
2	6月17日	聖カタリナ - 英明	CC	U1 薦田氏(愛媛) U2 谷氏(高知)	両チーム2ゲーム目だったが、英明は準決勝で接戦していたこともあり、体力的にも厳しかったように感じた。取り上げるべきかどうかの判断(RSBQ)が、もう少しできれば良かったように思う。
3					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>●城北 - 済美 主任: 金谷氏(愛媛県)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2POということもあり、Lがサイドを変えるかどうかの判断は重要</li> <li>・声を使って、ゲームをリードする</li> <li>・立ち姿、走り方、コール プレゼンの工夫</li> </ul> <p>referee defenseをすること、クロスステップを使うことなど、基本的なプレイの見方はもっと審判員全体で勉強していかなければならないように思いました。それらを使って判定につなげるために、やはり自分のエリア、アングルの理解、その中に入ってくるマッチアップを早く捕まえて準備することが重要だと感じました。</p> <p>●カタリナ - 英明 主任: 阿部氏(愛媛県)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げるべきかどうかの判断(RSBQ)</li> <li>・ショットクロックの管理</li> <li>・プライマリ</li> </ul> <p>PGCでは、具体的に話をしておくことが大切だと思いました。例えば、「Cが頑張りましょう」ではなく、何をどうするのかを話しておかないと意味がなく、ミスにつながる可能性があります。そして、プライマリについての確認も映像を集めておいてすべきでした。このプレイは、誰のプライマリか、ということ映像を見てイメージを残し共通理解が図れると良かったです。</p> <p>今大会には、香川県からも多くの審判員が派遣され、お互いにゲームの映像を見ながら試合後も具体的に話ができていたことは、とても良かったと思います。また、JBAに女性部会が立ち上がり、それに伴い、四国でも各県女性担当ができ、そのメンバーで、現状や課題、今後について話し合うこともできました。香川県、四国のためにさらに努力を重ねてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。</p>	

### 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 四国高校総体	2	派遣期日 平成30年6月16日
3	報告者名 田中 豊弘	4	派遣先 アミノバリュー体育館

5	大会概要 および 大会結果		
大会名称	四国高校総体	大会期間	平成30年6月16日～17日
大会内容	四国四県の高校総体でベスト4以上のチームが集まり、トーナメントで四国チャンピオンを決定する。		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月16日	今治西一高知工業	R	U1: 横山氏(徳島)	高知工業が終始オールコートプレスでプレッシャーをかけ続け、今治西も緻密なバスケットで応戦したが体力で勝る高知工業が走りきった。
2					
3					
4					

7	<p>審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等</p> <p>初めて四国総体に参加する横山氏とのクルーであった。ショットに対するbig impactに対して笛が入らない事があったが、crew workとして入れるべきであった。エリアの問題もあったが、CCとしてゲームをコントロールしなければならない立場としておおいに反省すべき判定であった。ゲーム全体を通して、高知工業がオールコートでプレスをしていることに対して判定が出来ていなかった事や、良いポジションを取れていなかった事は、2POで判定していく中で死角を減らす努力が必要な部分であると改めて実感した。特に高校生のスピーディーなバスケット展開に対しての理解を深めると共に、ルールの適用等をマッチさせる事が出来るように努力していきたい。今回の経験を県内でも共有して審判技術の向上が全県で出来るように取り組んでいきたい。</p>
---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 第71回四国高等学校バスケットボール選手権	2	派遣期日 平成30年6月16日・17日
3	報告者名 三谷 修司	4	派遣先 徳島県 大塚スポーツパークアミノバリューホール

5	大会概要 および 大会結果		
大会名称	第71回四国高等学校バスケットボール選手権	大会期間	平成30年6月16日・17日
大会内容	県総体ベスト4のチームでのトーナメント		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月16日	高瀬vs徳島城南	U1	CC 武内氏 U2 佐竹氏	高さを生かす徳島城南とスピードの高瀬と対戦となった。前半に早いバスケットで高瀬がリードし、そのまま逃げ切った。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>◎阿部氏からのミーティング、アドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今からは、新しいことへのトライが必要である。新しく知識として入っていることを確実にコートの中で実行することが大切である。2pなのか3pなのかを3人が協力をする事や、チームファールの数を3人で共有するなど、確実にできるようにすることの意識が低い。</li> <li>・ゲームの最初のワンプレーから判定基準をしっかりと示す。自分が笛を鳴らすことが多くなってきたときこそ、RSBQにしっかりと照らし合わせて、判定できるようにする。余裕を持って、ひと呼吸おいて鳴らす、鳴らさないくらいの気持ちで判定できるようにすることも必要である。</li> </ul> <p>まだまだ見えたことを笛に表してしまうというところが自分でもあるので、日頃から経験を積んで、映像を見て確認するという作業を繰り返していきたいと思いました。</p> <p>◎感想</p> <p>今回は、S級の方とA級、B級と一緒にコートにたつということができたへんいい経験ができたと思います。自分自身はできませんでしたが、実際に見て、話を聞いていい勉強になったと思います。例えばボールサイド2（ローテーション）のタイミングなどはぜひ次の機会に3人で話をして試してみたいと思いました。</p>	

## 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 四国高校総体	2	派遣期日 平成30年6月16日(土)17日(日)		
3	報告者名 菅 由佳里 (社会人)	4	派遣先 アミノバリューホール		
5	大会概要 および 大会結果				
大会名称		四国高校総体		大会期間	2018.6.16～17
大会内容		<p>高校の四国大会である。</p> <p>各ブロック男女とも1位から4位のチームが集まり、トーナメントを行い、勝ち上がったチームが2日目に準決勝、決勝を行う運営面においては四国の上級審判員やブロック研修生が集まった。</p> <p>コート外では試合を見て勉強しお互いを高めあいよい刺激となった。</p>			
6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	6月16日(土)	女子: 聖カタリナVS岡豊	U1	CC阿部(徳島) U2長谷川(香川)	両チーム選手のサイズも似ていてよく走るチームである。聖カタリナが全員で走り守り、速攻もよく出たゲームだった。試合開始から流れは変わらずシュートを決め勝利をおさめた
2	6月17日(日)	女子: 高知中央VS英明	CC	U1金谷(愛媛) U2竹内(高知)	両チーム選手のサイズも似ていてよく走るチームである。終始接戦であったが英明が全員で走り守り、速攻もよく出たゲームで試合終盤確実にシュートを決め勝利をおさめた
7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等				
<p>&lt;ミーティング内容・今後の課題&gt;</p> <p>・<u>オーバーエリアの判定</u> 判定はあっているが、相手がコールできなかつたら準備をしているという余裕があればいい。ダブルコールの時に何度かあったので誰がプライマリなのかはつきりさせること。遅らせてもいいので少し我慢する工夫が必要。</p> <p>・<u>テンポセッティング</u> 試合の初めから判定基準を作っていくこと。1Pが大切になってくる。誰がどこで何を判定したかを把握しクルー全員で共通理解していくこと。</p> <p>・<u>クルーワーク</u> クルーとして誰がどこで判定したのか、どのような気持ちなのか、どこのポジションでいたのか全てを理解しコミュニケーションをしっかりとること。自分の意思ばかりを伝えるのではなく、相手がどのような気持ちでいるのか、他のクルーが思い切って判定できるようなコミュニケーションをとり全員で試合最後まで取り組めるように望むこと。それをこれからどんなゲームでも意識して望むこと</p> <p>&lt;大会を通して&gt; 県総体を振り返って自身のまた新たな課題が見えてきました。クルーとしてどうなのか、自身の意思を伝えるだけではなくクルーがどのような心境で、どんな状態かしっかり把握すること、またクルーが思い切ってできるような状況を作ることです。今回はその反省点を含め取り組んだ大会でした。課題はたくさんありますが、目の前の課題から少しずつクリアしていくこと、またクリアするためには挑戦することも大切になってくると思うので反省し課題があり実践に移す。ということを整理しながらこれからもしていきたいと思います。四国総体で得たことをまたプラスに変え今後またステップアップできるよう活動します。また四国や県内の仲間にも伝えていきたいと思います。今後ともご指導よろしくお願い致します。ありがとうございました。</p>					

## 審判員派遣報告書

1	派遣事業名	四国高校選手権大会	2	派遣期日	平成30年6月16日17日
3	報告者名	藤原 紘子	4	派遣先	アミノバリューホール

5	大会概要 および 大会結果				
	大会名称	四国高校選手権大会	大会期間	平成30年6月16日17日	
	大会内容				
四国高校選手権大会					
参加チーム各県4チーム。トーナメント方式で行う。					
優勝は男子 新田 準優勝は 松山工業					
女子優勝は聖カタリナ 準優勝は英明					

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	6月16日	富岡東-英明	U1	CC: 金谷氏(愛媛) U2: 川人氏(徳島)	お互いにタイトなDFをし、走りあいの展開。英明のシュートが入りだして、得点はあいたが、最後まで激しい展開が続いた。
2	6月17日	聖カタリナ-高瀬	U1	CC: 阿部氏(徳島) U2: 川村氏(愛媛)	高瀬のドライブが効果的で、初めは、走りあいの展開。聖カタリナのインサイドの攻めが当たりだし、じわじわと得点差が開き、カタリナの勝利。
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等				
6月16日					
<p>一番の反省は、クルーとしてのクルーワークである。富岡東のDFへCが対応しようということで、前半の早い段階でメカニクスを修正した。しかし、そのことで、CtoCやリードの入り方が遅くなり、ローテーションがすごく重たくなってしまった。クルーとしてアイコンタクトをとること、タイムアウトの情報共有などだけではなく、メカニクスの上での協力がもっと必要だった。</p> <p>二つ目はベーシックなことの徹底ということが非常に薄かったことである。どのような試合でもプライマリエリアやアングルのレフリーが判定をすること、タイムアウトの時の情報共有の内容など、PGCで約束していたことをきちんと徹底することが大切だと痛感した。特に、タイムアウトの数をTOと確認をしていなかったことで、チームに対して、TFをとらなくてはならない状況になってしまった。まずは、きちんと確認することと、チームへきちんと伝えることをレフリーが徹底することが大切だと思った。</p>					
6月17日					
<p>ローテーションはスムーズで、特に1Pの入り方は非常によかった。しかし、ゲームが進むにつれて、少しメカニクスの部分でぬけてしまったことがあったので、1試合通して、続けることが大切だった。誰がどこから吹くのか、ということがやはり大切である。ゲームがそこまで激しいものではなかったのに、見えたものが吹く、というふうになってしまった。判定した中に、RSBQを見て取り上げなくてもいいものもあったので、ゲームの流れや選手の能力を見て、ファウルの成立について吟味していかななくてはならない。</p> <p>二日間を通して、一番の課題は、ベーシックなことの徹底である。誰とどのようなゲームを吹いたとしても、ベーシックなことをきちんとおけば、自分自身もクルーとしても落ち着いてレフリーをすることができる。もう一つは、ファウルの成立(FOMやRSBQなど)についてである。笛をふくタイミングも含めて、自分のプライマリのプレイを確実に判定し続けることが、ベンチや選手の信頼を得ることもつながると痛感した。自分なりにトライして見えてきた課題がたくさんあったので、映像で振り返り、修正していきたいと思った。今回、四国高校総体に参加させていただき、本当にありがとうございました。今後今以上に1試合1試合を大切に、どのような試合でも基本的なことを積み重ねていきます。今後ともご指導よろしくお願いたします。</p>					

## 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 四国高校総体	2	派遣期日 2018/6/16(土)17(日)
3	報告者名 岩瀬 寛明	4	派遣先 アミノバリューホール

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	四国高等学校バスケットボール選手権大会	大会期間	2018年6月16日・17日
大会内容	男女それぞれ、各県上位4チームが出場するトーナメント		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月16日	新田-多度津	U2	CC 仲地氏(香川) U1 竹内氏(高知)	第1ピリオドから新田が得点を重ね、終始リードした。新田の速攻がよく決まり、オールコートでのディフェンスも効果的であった。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等
<p>○PGCで確認したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なメカの確認。(プライマリーエリア、アングル、積極的なスイッチサイド、EOPやEOGのタイムアップ等)</li> <li>・ウィークサイドでのアウトオブバウンズの協力。</li> <li>・序盤からのテンポセット。</li> </ul> <p>○試合を通してクルー間で確認したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オールコートディフェンス時のリードのスイッチサイドを速くする。</li> <li>・ダブルコール時のプライマリーの再確認。</li> <li>・キーマンとなる選手の1対1の留意点。(ディフェンスの手のからみによる影響)</li> <li>・ファウルの偏りに気を配る。(勝っているチームのファウルこそ、こぼさないようにする)</li> </ul> <p>○試合を通して感じたこと</p> <p>序盤はテンポセットを意識してゲームに臨めたように感じる。遅れて出した手によるショットのファウルやEOPのブロッキング、リバウンドでの接触等、ファウルに関してはファウルの原則に従って、丁寧な判定ができた。ただ、ゲーム中のクルー間での会話にも出たように、負けているチームのファウルが増えてきたときに、本当にコールをしなければならないほどの影響であったのかまでを考慮することができていなかった。</p> <p>○ゲーム後にご指導いただいたこと(主任:堀内氏)</p> <p>ゲームを通して3POで行うことの意義を考えるようにしなければならない。「3人で審判をする」ではなく、「3人が協力をする」ことを大切に。例えば積極的なセンターからの判定もその一つである。速い展開によりボールサイドが変わったときやスイッチサイド中にウィークサイドにボールが展開されたときなどはセンターがリードを助けなければならない。3POの弱点を理解し、その弱点を補い合うことでより正確な判定につながる。</p> <p>ゲーム中のジェスチャー(ファウルの数、だれがタイムアップを宣するか)や、2Pか3Pのフラッシュなど、ゲーム中に合図やアイコンタクトを積極的に行うことも必要である。3人の役割分担を互いに確認し合うことが求められる。</p> <p>○今後の課題</p> <p>センターからの積極的な判定ができなかったのか、「なぜ判定できなかったのか」を追求する必要があると感じた。アングルや位置が悪いのか、または基本的なこととしてルールの理解が乏しいのか原因はさまざまなことが考えられる。加えてアウトオブバウンズの判定において、自分がヘルプを求める場面があったので、逆に自分が求められたときに助けられるような準備を行わなければならない。また、ルーズボールで選手同士が近接したときも判定がとても不安なので、アングルや位置をどうすべきか、映像を確認しながら改善したい。</p> <p>最後に、今回の研修にもっと機会を与えていただき、またご指導をいただき、また四国審判委員会のみなさまに感謝申し上げます。</p>	

### 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 四国高校総体	2	派遣期日 6月16日(土)
3	報告者名 川原 勝	4	派遣先 鳴門総合運動公園

5	大会概要 および 大会結果		
大会名称	四国高校総体	大会期間	6月16日～17日
大会内容	四国4県が県予選上位4チームによるトーナメント戦。 男子は、新田高校(愛媛)女子は、聖力学園(愛媛)が優勝した。		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月16日	高知商業対徳島城南	R	山田佳奈(愛媛B)	高知商業による連続スリーポイントから始まった。徳島城南は、インサイドの高さを活かして着実に得点して行き、高知商業の力負けとなった。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
今大会は、講義等は無く、各試合に主任がついて、レフリーミーティングが行われた。 その中で、指導をいただいたのは、主に2つのことであった。 ①動きながらの判定を少なくすること ②ゲーム序盤のテンポセッティング	
①については、速攻の時に、ニューリードへの移動の意識が強すぎるがために、かえってブラインドになってしまうケースがあった。改善策としては、見やすいアングルでスティしておき、そのプレーの後にベーシックなポジションにつく、という内容であった。 ②については、後半開始時に両チームのチームファールがかさんでしまっていた。もっとゲームの序盤で基準を明確にさせてプレイヤーに示しておきたい。	
ゲーム全体を通して大きなトラブル、怪我なく終えることができた。自分自身の課題にしっかりと向き合っており、ルール理解や基本的なことを忠実にこなしていかなければならないと強く感じた。	
今大会の派遣に際して、香川県協会の皆様にはご尽力(を尽くして)いただき、感謝申し上げます。 県外で学んだ反省と成果を活かして地元での活動に尽力して参りたいと思います。ありがとうございました。	

## 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 平成30年度第71回四国高等学校バスケットボール選手権大会	2	派遣期日 2018年6月16日～6月17日
3	報告者名 木下 雄貴	4	派遣先 アミノパリュールホール

5	大会概要 および 大会結果		
大会名称	平成30年度第71回四国高等学校バスケットボール選手権大会	大会期間	2018年6月16日～6月17日
大会内容	四国各県でベスト4に入ったチームがそれぞれ争い、四国の1位を決める大会。 女子は聖カタリナ高校が、男子は新田高校がそれぞれ優勝した。		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	43267	富岡東-高知南	U	阿部 陽子(愛媛)	序盤から一進一退の攻防が続き、終盤までもつれ込む。最後は富岡東が1点差で高知南を退けた。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>●pre-game conference pre-game conferenceでは、以下のことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時限の管理(timerやshotclock)をTがしっかりすること</li> <li>・3番エリアはしっかりTが確認しよること、また3番から4番エリアへのドライブはLがしっかり受けること</li> <li>・Tが見えづらい位置についてはLが位置を変えてしっかり確認すること</li> <li>・Lは極力右サイドに行かないが、5・6番エリアのローポスト付近でポストアップしそうな場合については積極的に確認しに動き、Tが逆サイドをケアする。そこから逆サイドに展開したときには急いでLは左サイドに戻る</li> <li>・バックコートに3ペア以上いる場合、Lはすぐに戻らずセンターライン付近で逆サイドやフロントコートの選手のケアをする</li> <li>・ドライブが始まったときはアングルを変えて視野を確保する</li> <li>・メンバー表から身長を確認して、ポストアップしそうな選手の確認や両チームの攻め方を確認する</li> <li>・Ostepについては、明らかなものだけを取り上げるようにする</li> </ul> <p>●前半の反省 目の前でのプレーをしっかりと判定できていないことが多々あった。ドリブルしているオフェンスがディフェンスに何度もあたり、ディフェンスを倒したケースや、ムービングスクリーン、ファイトオーバーした後のハンドチェック、1番からのドライブに対するディフェンスの寄せ方など、印象に残っているものだけでもたくさんある。ほとんどのケースで自分がTのポジションの時に起こったものであったので、Tのポジション取りを変えなければならないと感じた。また、Lの時は、pre-game conferenceで話をしたように、ローポストでのポストアップが考えられるものについては右サイドに移動して見るように心がけたが、そこからアタックするよりもキックパスをするケースが多かったため、Lは極力右サイドにいかないように確認した。</p> <p>●後半の反省 試合が終盤までもつれることが予想されたので、一つ一つの判定をしっかりと確認して行うように心がけた。しかし、reboundに気をとられてshotに対して目を切ることが早く、最後までshotの確認ができていないこともあった。</p> <p>●試合を終えて 今回の試合を通して、pre-game conferenceの行い方や、試合中、プレーの見方を修正していくこと、笛をはさむ・はさまないにしろ根拠を明確にして判定することの大切さなど、様々なことを考えることができました。また、主審としての振るまい方を阿部さんのレフェリーの仕方や声かけの仕方、相方のフォローの仕方から身をもって学ぶことができました。今回の試合を通して、自分の足りないところや直した方がいい部分を考えるきっかけになり、私にとっては大変有意義な試合を経験させていただきました。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。</p>	

### 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 四国高等学校バスケットボール選手権大会	2	派遣期日 H30.6/16(土)
3	報告者名 平尾 翔汰朗	4	派遣先 アミノバリューホール(徳島)

5	大会概要 および 大会結果		
大会名称	四国高等学校バスケットボール選手権大会	大会期間	H30.6/16～H30.6/17
大会内容	四国4県の上位4チームによるトーナメント戦		
	6月16日 1・2回戦		
	6月17日 準決勝・決勝		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月16日	新田-高知小津	U	白川 一樹(香川)	終始、新田がペースを掴んでいたゲームだった。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>○新田 - 高知小津 (主任: 谷 隆正氏)</p> <p>主任の方からは、1ゲームを通して落ち着いて笛が鳴らせていたと思う。声の使い方や声量も非常に良かったので継続していくべきだ。自分がリードの際に体だ開きすぎている場面があったので、体を開くのではなく、足を使ってもう1歩踏み出すことを意識すること。また、クロスコールが何本かみられたからプライマリーやアングルが悪いときは吹かない、相手審判に任せるという勇気(我慢)を持つことが大事だとアドバイス等をいただいた。</p> <p>自身の反省としては、ゲームを通して主審の白川氏とコミュニケーション、アイコンタクトを取りながら落ち着いて判定を行えたと思う。また、2P or 3Pのフラッシュを協力して行えた。その中で反省点として1つ目は、以前にも県内のゲームの際にも指導をいただいていたプレゼンテーションである。笛を鳴らしていない場面で歩く、走る以外の際に自分の腕が脱力していてだらだらしているように見えてしまっていたことである。自分が動いていない時でも脱力しすぎずだらだらしているようにみえない姿勢をとっていけるようにしていきたい。</p> <p>2つ目は、判定である。1Qでは速攻のケースで自分がトレールに戻る のが遅れてしまい、ショットファールを吹き逃してしまった。1対1のケースでリードが戻っていたので自分の中で大丈夫だろうという気持ちがあったのでこういうことに繋がってしまった。どんな時も判定しに行くという気持ちを持つことを忘れずに取り組む必要があると思った。</p> <p>2Qでは、ボール運びでのケースで自分がトレールで追従している際に、DFのファールを吹いてしまった。OF・DFのスペースや関係性を確認できていない中でその場の雰囲気を取り上げてしまったので確認ができていないものは吹かないという習慣づけから行っていきたい。</p> <p>○1日を通して</p> <p>今回は、初めて四国総体に参加することができました。1日を通して県内・外のたくさんの方とコミュニケーションをとることもでき充実した1日を過ごすことができました。また、同年代の県外の方が2回戦以降の3POでのゲームを吹いているのを見て、自分の力不足を痛感し悔しさを感じることができました。この悔しさを糧にいろんな場面に自ら足を運び、もっと勉強をしていかなければならない。最後になりましたが、今回の四国総体を通してお世話になりました四国4県の審判員の皆様、香川県協会の皆様、ありがとうございました。</p>	

## 審判員派遣報告書

1	派遣事業名 第71回四国高等学校バスケットボール選手権大会	2	派遣期日 H30.6/15,16
3	報告者名 高田 開	4	派遣先 大塚スポーツパーク アミノバリューホール

<b>5 大会概要 および 大会結果</b>			
大会名称	第71回四国高等学校バスケットボール選手権大会	大会期間	H30.6/15~17
大会内容	各県総体で4位以上の成績を収めた高校が出場。 男女各16チームのトーナメント戦による優勝決定戦。 女子優勝は聖カタリナ(愛媛)、準優勝は英明(香川)、男子優勝は新田(愛媛)、準優勝は松山工業(愛媛)で大会は		

<b>6 担当したGame</b>					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6/16(土)	聖カタリナ vs 徳島商業	U	佐野氏(高知)	聖カタリナは高さスピードを活かしたオフェンスで、第1Qから大量得点差をつける。徳島商業も、細かいパス回しからオープンショットを狙って応戦。後半ゾーンDFで聖カタリナの流れを止めることがで
2					
3					
4					

<b>7</b>	<b>審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等</b> ○担当ゲーム:聖カタリナvs徳島商業 ○相手審判:佐野氏(高知県) ○ゲーム主任:阿部氏(徳島県) まずプレゲームカンファレンスでは、2POのメカニクスとプライマリーの確認を主に行った。また、両チームの特徴をもとに予想されるゲーム展開についても話し合いをした。高さ、速さを併せ持ち、力強いプレイをしてくる聖カタリナに対して、身長的に劣る徳島商業がどのような対策をしていくかを見極めながら判定をする必要があった。試合開始から、大方の予想どおり聖カタリナが一気に抜け出した。試合が動くのが早かったが、そのなかで2人がテンポセッティングを意識して積極的に判定できたことは良かったと講評をいただいた。しかし、特に前半はダブルコールが多かった。見えたものを素直に吹いているので、ダブルコール自体が悪いということではないが、誰のプライマリーか、どちらの方がよりいいアングルから判定できたかを見て、誰がレポートに行くのかを考える必要があると教わった。ゲーム中にアイコンタクトをとることや、あらかじめプレゲームカンファレンスで決めておくことが大切だと思った。また、今回のような点差があいた試合だからこそ、もっと余裕を持ちつつ色々なところに気配りをしなければいけないと感じた。例えば、チームファールの数をあらかじめ確認しておけばボーナスショットの時などにスムーズな運営が出来たのではないかと感じた。ゲームの途中、徳島商業がゾーンDFに切り替えた。それに対して聖カタリナはオーバーロード・フォーメーションをとった。そのときにリードがスイッチサイドするかどうかを2人で話を合わせて、積極的にスイッチするという方針で対応した。しかし結果的には、4人のサイドでタイトなマッチアップは見られず、逆サイドにキックアウトしてから攻撃することが多かった。そのため、リードはスイッチせずに展開された時の準備を兼ねて、クローズダウンポジションで見ることがベストだったと指導いただいた。それぞれのチームの戦術の意図を読み取ることも大切だと学んだ。そして、今回のゲームのポイントとしてはリバウンドのところだった。聖カタリナの頭ひとつ抜けたセンタープレイヤーに対しての徳島商業のスクリーンアウトの仕方、またそれを意に介さず上から取りにいこうとするところでのコンタクトの判定が難しかった。ナイスコールもあったが、それと同等のコンタクトでも笛がならないケースもあった。シリンダーの理解と、どちらが触れ合いを起こしに行ったのかを見極められる力をつけなければいけないと感じた。判定基準に一貫性を持って吹き続けられるようにもう一度ルールの確認をすべきだと思った。  ○最後に 今回で、県外派遣は3回目になりましたが、公式戦での派遣は初めてでした。緊張はありましたが、他県の若手レフリーの方の色々な話を聞いていると、自分も勇気をもらえました。また、高いレベルの試合と、上級の方々のレフリーを見させていただいてとても勉強になりました。最後になりましたが、今回の派遣でお世話していただきました皆様に感謝申し上げます。四国高校総体という舞台に立たせていただいた経験を次に活かし、日頃の活動を大切にしていより大きな舞台で活躍できるようにいように精進して参ります。これからも変わらぬ
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------